## 第一小学校の思い出 (田中茂雄)

### (庚塚の様子)

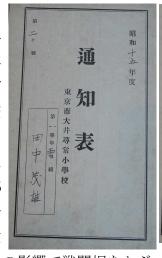
昭和8年、田中さんは庚塚で生まれました。家の前には原の水神様より流れ出た川が流れて居り、又近所には大きな池や原っぱがありました。風呂屋のそばだったので、「お湯屋の原っぱ」「お湯屋の池」と呼んで、子どもたちの良い遊び場でした。池にはトンボが来たり、小さな魚やエビがいっぱいいましたが、池に入ると溺れて死んじゃうぞと言われていました。池のまわりは、現在と同じくらい家が建ち並んでいました。



# (大井尋常小学校)

昭和15年、大井尋常小学校に入学しました。昭和16年に大井第一国民学校と名称が変わりました。(通知表の写真)。一年生の時は評価が甲乙丙丁で、田中さんは全甲だったとのことでした。二年になると評価方法が優良可に変わりました。

小学校は松竹梅雪の四クラスでした。一クラスは 50 人 くらいで、1・2 年生の時は男女一緒の組で、3・4・5・6 年生は別々の組となり、松・竹が男組・梅・雪が女組に分 かれていました。3 年生か 4 年生のとき、向丘遊園地に遠





足に行ったときの写真です。男の子だけの写真です。戦争の影響で戦闘帽をかぶっていて、足にゲートルを 巻いている子もいます(遠足の写真)。2 年生くらいまで男子の髪型は坊ちゃん刈りですが、そのまま坊ちゃ ん刈りでいるとみんなからバカにされるので、3年生くらいになると皆、坊主頭にしました。兵隊さんが坊 主頭の為です。



#### (登下校)

2年生の時から、学校に行くのに集団登校が始まりました。学校の近所まではまとまって歩いて行き、正門のところ迄来ると、6年生の週番が二人立っていて、そこで軍隊式に歩調を揃えて、敬礼をして、登校しました。帰りは、玄関そばに校長室があり、その隣に天皇陛下のご真影と勅語の奉安殿があり、そこで最敬礼をして帰りました。

## (遊び)

1・2 年生のころは男女一緒だったので、休み時間に「イザヤイザヤ」という遊びをしましました。遊び方は、二人が「親」となって 50 センチ程の間をあけて向かい合います。そして、互いに両手を肩より上の高さにあげて、手をつなぎトンネルの形にします。「子」は少なくとも 5・6 名必要ですが、一列に連なって並びます。そして、「さくら、さくら弥生の空は見渡すかぎり、いざやいざや見に行かん」と歌いながら、二人の親のトンネルの下を進みます。最初の子は最後尾の子の後ろにつながって輪になり、歌いながら行進します。歌い終わったところで、親がつないだ手を下ろします。丁度そこで捕まった子が親と代わります。その他に、鬼ごっこ、かくれんぼ、ドッヂボール、縄跳び。女の子はお手玉などをしました。雨が降ると、休み時間には「ズイズイズッコロバシ」などをして遊びました。ベーコマを持って行ったら没収され、一時、メンコがはやり、それも没収中止になりました。3・4 年のころになると、戦争が始まり、軟弱な遊びはやらならくなり、戦争ごっこがはやり、騎馬戦などをして遊びました。

### (弁当と給食)

田中さんが通っていた当時、大井第一小学校は木造二階建てで、正門入口の場所は現在と同じです。学校の入口の脇に小使い室(現在の用務員さん)がありました。小使い室には大きな釜があり、昼食用にお茶っ葉が入っていて、お昼には、お茶当番が大きなやかんでお茶をもらいに行き、教室でみんなについで廻りました。お茶のためのコップを持って来ている人もいるし、持って来ない人は、弁当箱のフタにお茶をいれてもらいました。当時は給食が無く、弁当持参でした。

そのうち、学校給食が始まりました。当番が、大きな入れ物にご飯を山盛りにして教室迄運び、よそってくれました。味噌汁は、当番の人がバケツで持ってきて、ひしゃくでよそってくれました。私たちは空の弁当箱と空のお椀を持って行きました。ただ、給食は1・2年間で終わりました。お米の配給統制が厳しくなり、お米の割り当てが無くなった為です。

### (体育の授業)

体操の時間、校庭に土俵があり、そこで相撲をとったりし、剣道などしました。あとは校庭一周かけっこ。 プールがあり、泳げない人は、プールの端でバタ足などをして、水泳指導を受けていました。男の子はふん どし、女の子は水着でした。プールから上がると、水飲み場みたいなところで、目を洗いました。

### (冬の寒さ)

冬の暖房は石炭ストーブ。寒いときは、ズボンのポケットに手を入れると怒られました。少々の雨の時も 傘を差すと怒られました。軍隊の行進では傘を差さないからです。寒かったら押しくらまんじゅうをしまし た。校庭を走って一周すれば汗をかいて寒くないなどとも言われました。

昔は誰もが必ずしもやけになりました。栄養が悪いためか、皆おできができやすく、おできのかさぶたが 天ぷらの衣みたいに大きくなったりしました。少し離れてましたが、入新井一丁目におでき薬局という名前 の薬局があり、良く効くおできの薬が置いてあり、そこまで買いに行ったりしました。又、頭にシラクモ(頭 部白癬)にかかる子が多くいました。床屋に行くとシラクモがうつるといって、田中さんは自分の家にバリ カンを備えて髪を刈ってました。

### (戦争の影響)

兵隊に行ったら、戦場に女の子はいない。衣類が破れたら自分で縫わないといけないということで、裁縫は必修ではありませんが、1時間か2時間、ボタン付けと運針を習ったそうです。5年生の時、物資が不足して、出版社が本を出版しないので、習った本を学校に置いてゆけというとこになり、先輩が残した教科書を使うことになりました。

#### (縁故疎開)

昭和19年、学童疎開が始まりました。田中さんは5年生の1学期まで第一国民小学校にいて、夏に母の実

家に縁故疎開しました。田舎が無い児童は日野に集団疎開をしました。母の実家は福井県の越前市辺で、農村地帯にありました。母親も一緒に行き、父親は仕事の関係で東京に残りました。その頃まで、戦争を身近に感じることはなかったといいます。母の実家には疎開前にお墓参りなどで行ったこともあり、庄屋をしていた家で、大きく、近所に親戚もいて、いじめられたことは無く、食料に困ることはなく、母親と一緒だったので寂しい思いをすることも無かったそうです。疎開先で、都会と違ったのはイナゴ取りや落ち穂拾いが学校行事だったことと、豪雪地帯で、雪が多いのには困ったそうです。イナゴは大きな釜で茹でて、干していましたが、自分たちで食べることは無かったそうです。

# (大井の戦災跡)

昭和 20 年 8 月 15 日に終戦となり、田中さんは夏が終わったら、すぐに東京に戻ったそうです。庚塚の家は疎開の時、家主に返したので、父が見つけてくれた矢口の家に住み、矢口小を卒業しました。庚塚の家は焼けずにいました。庚塚周辺は焼けず、うさぎ幼稚園や大井小学校だけが焼けました。鹿嶋神社も、終戦になるころに、爆弾が落ちて、屋根がまくれてしまいました。倉田町は強制疎開で家が無くなりました。大井はほとんど焼けてなく、焼けたのは大井町の駅の付近だったと記憶しているといいます。田中さんは、大井小学校を卒業しませんでしたが、これが大井小学校の焼け跡の卒業式(昭和 21 年 3 月)の写真ですと見せてくれました(卒業式の写真)。



(田中さんの写真を撮影したので不鮮明ところがあります)